

10月上旬から10月中旬までの農作物に対する台風対策

1 普通期水稲

(1) 事前対策

ア 排水路等を点検・整備し，長時間の冠水，滞水防止に努める。

(2) 事後対策

ア 冠水した水田は，速やかに排水する。

イ 水田や用排水路等の土砂，木切れ等は，できるだけ早く取り除き，水管理に支障がないようにする。

ウ 高潮などで海水が流入した水田は，速やかに排水し，かけ流しを行う。

2 畑作共通

(1) 事前対策

ア 排水溝を整備し，滞水防止に努める。

(2) 事後対策

ア 滞水したほ場は，速やかに排水する。

イ 潮風害が懸念される場合，散水施設のあるほ場では，台風通過後，できるだけ速やかに散水する。

3 さとうきび

(1) 事後対策

ア 新植夏植えでは，苗が流出したら補植する。また，埋没したら芽掘りを速やかに行う。

4 大豆

(1) 事後対策

ア 株元の土が洗い流された場合は，土寄せを行う。

イ 葉の損傷による紫斑病の発生を防止するため，薬剤散布を行う。

5 野菜

(1) 事前対策

ア 防風垣，防風ネット等の補強を行い，強風による被害を最小限に食い止める。特に風圧のかかる両端は重点的に補強する。

イ 収穫期に近い野菜は，収穫する。

ウ 育苗中の苗は、安全な場所（室内等）に持ち込むか、べた掛け資材とトンネル用ポール等を用いて浮かし掛けをし、周囲はしっかり固定する。べた掛け資材などの設置については、できるだけ低く設置した方が良いが、強風で苗を傷つけないように留意する。

エ つる性のきゅうり、にがうり等は、「つる下げ」を行い、べた掛け資材等で被覆し、しっかり固定する。「つる下げ」ができない場合は、支柱やネットが倒れないように、しっかりと固定する。

オ ピーマン、ナス等定植直後のものは、支柱から取り外して株を倒せる場合は倒し、倒せない場合はできるだけ低くして、被覆資材等で上から押さえ、しっかりと固定する。

カ かぼちゃ、豆類（そらまめ等）、葉根菜類（キャベツ等）は、可能であればべた掛け資材で被覆する。

キ 根深ねぎは、土寄せやテープ等を張り、茎葉の折損、倒伏を防ぐ。

ク さといも（大吉）の早植マルチ栽培で倒伏が懸念される場合は、茎葉を切断する。

ケ いちごは、べた掛け資材等で被覆固定し、茎葉の傷みを軽減する。

（２）事後対策

ア 台風通過後、速やかに排水を行う。特に高温期は、長時間滞水しないように注意する。

イ 被覆資材等は、直ちに除去する。

ウ 茎葉の折損部からの病害侵入を防ぐため、直ちに殺菌剤の散布を行う。

エ 草勢の回復を図るため、葉面散布または化成肥料による追肥を行う。

オ 室内に持ち込んだ苗は、速やかに外へ持ち出して広げる。

カ 強風によりはがれた土壤消毒用の被覆資材は、速やかに張り直す。

キ にがうり、きゅうり等で「つる下げ」を行ったものは、台風通過後、速やかに「つる上げ」を行う。

ク ピーマン、ナス等定植直後のものは、支柱に誘引し直す。

6 花 き

（１）事前対策

ア 定植直後の草丈の低いものは、べた掛け資材で被覆固定する。

イ 仕立て直しが可能な花き類は、フラワーネットや支柱を外し、剪定するか倒伏させて、べた掛け資材で被覆固定する。

ウ 収穫直前の切り花は、台風接近の様子を見て、やや硬めでも収穫する。

エ 鉢物類は鉢を寄せ、べた掛け資材で被覆固定する。大鉢は同一方向に倒す。

オ 露地電照栽培やビニル除去後の施設栽培では、電照用の電球を外す。

カ キク母株は、可能な限り採穂・冷蔵する。残った株は防風ネットやべた掛け資材で被覆し、しっかり固定する。

キ 露地のキク等は、支柱を補強（打ち込み直し、本数増加）し、フラワーネットがずれ落ちないように支柱に固定する。

(2) 事後対策

- ア 生育中の花き類で倒伏したものは、風が弱まり次第、直ちに株を立て直しを行う。
- イ 仕立て直しが可能な花き類は、整枝や株の切り戻しを行い、草勢の回復を待つ。
- ウ 株に泥が付着している場合は、速やかに水で泥を洗い流す。
- エ 茎葉の折損部からの病害侵入を防ぐため、直ちに殺菌剤の散布を行う。
- オ ビニルや遮光資材を被覆し、強い光や降雨から植物を守る。
- カ マルチ栽培で滞水したほ場では、マルチのサイドをめくり上げ、土壌の乾燥を促す。
- キ 外した電球を速やかに取り付け、電照やタイマー、冷蔵庫など電気設備の再点検を行う。
- ク 鉢物類は、被覆固定したべた掛け資材を外し、もとの位置に戻すとともに、倒した鉢は速やかに起こす。
- ケ 露地のキク・ソリダゴ等は、軽く中耕・土寄せを行い、薄めの液肥を施用する。

7 果 樹

(1) 事前対策

- ア 防風樹や防風施設の点検・整備を行う。
- イ 幼木や若木は倒伏しやすいので、支柱を立てて補強する。
- ウ 高接ぎ樹等は接ぎ木部から裂けやすいので、支柱に誘引する。
- エ 病害発生の懸念がある場合は、予防散布を行う。
- オ 하우스内に雨水が流入しないように対策を行う。

(2) 事後対策

- ア 倒伏樹は速やかに起こし、株元に土入れして再倒伏を防ぐ。
- イ 枝裂けや枝折れした場合は、切除して癒合剤を塗布する。
- ウ 病害発生の懸念がある場合は、台風通過後、速やかに薬剤散布を行う。
- エ 樹勢低下が懸念される場合は、樹勢回復を図るために液肥の葉面散布を行う。
- オ 腐敗果実は園外に持ち出す。

8 茶

(1) 事前対策

- ア 茶園に防風ネットを設置している場合は、保守・点検を行う。
- イ 幼木園では折損や倒伏等を防ぐため、状況に応じて徒長枝を剪除する。
- ウ 防霜ファンを固定するための支線等を外している場合は、元に戻す。
- エ 製茶工場の電気施設及びガス・重油保管施設は、電源や元栓を確認する。
また、出入り口や窓の戸締まりを徹底し、煙突や排気口・換気扇等の補強・整備を行うとともに、工場内を見回り、電子機器等が濡れないよう対策を行う。

(2) 事後対策

- ア 大雨で肥料が流亡している可能性があるほ場は、再度、施肥を行う。

イ 幼木園で、株元の土が流亡したり、茶樹が横倒しになっている場合は、速やかに土寄せを行って踏み固める。

また、欠株が生じた場合は、秋以降に補植を行う。

9 葉たばこ

(1) 事前対策

ア 乾葉の保管場所の点検を行うとともに、乾葉にシート等を被覆する。

(2) 事後対策

ア 乾葉の保管場所の点検を行うとともに、濡れた乾葉がある場合は、仕分けをして再乾燥する。

10 畜産

(1) 事前対策

ア 畜舎の補強や、物が飛散しないように格納、固定する。

イ 畜舎周辺の排水溝の清掃、点検を早めに行う。

ウ 給餌、搾乳、通風、換気等電力施設・機械を利用しているところは、停電が懸念されるので発電機を準備する。

エ トウモロコシ・ソルガム等刈取適期に近い作物は、事前に刈り取る。

(2) 事後対策

ア 台風通過後は、ただちに畜舎内外の排水をして消毒する。

イ 今後も生育が見込まれるトウモロコシ、ソルガム等は、ほ場の排水を行い追肥を行う。

ウ 折損・倒伏したトウモロコシ、ソルガム等は、早めに刈り取り、ソルガムは再生を早め、トウモロコシは次の作付を急ぐ。

11 園芸作物のハウス等農業施設の保護

(1) 事前対策

ア 防風垣や防風ネットの設置と補強を行う。

イ ハウスは、杭の補強とハウスバンドの締め直しを行い、ビニルの破れた箇所は補修し、ハウス全体をしっかりと固定する。

また、強風が懸念される場合は、ビニルを剥ぎ取り、作物は防風ネット等でべた掛けを行い、保護に努める。

ウ 果樹の防鳥・防蛾用施設（忌避灯・ネットの被覆）の補強は、張力専用線を用い、中柱の補充と周囲線の補強を行う。

(2) 事後対策

ア 台風通過後は、直ちにハウス等農業施設周辺を見回り、異常がないか確認する。

イ 強風でゆるんだハウスバンド等は締め直し，ビニルの破損は張り替えるか，補修する。

ウ 作物を保護していた防風ネット等は取り外す。